

介助犬に期待する動作と必要とする理由

1. 物の拾い上げ
2. 特定の物を手元に持ってくる
3. ドアの開閉
4. スイッチ操作
5. 以下 11. まで省略

介助犬訓練計画書

訓練事業者名

記載者氏名

印

障害者氏名	男	女
生年月日	年	月 日 歳
障害名	種	級
現傷病名		
発症年月日	年	月
合同訓練時の注意事項 **医療機関記載欄		
医療機関名		
住所 〒		
	県	市
電話	fax	
障害状況、合併症等について (訓練の制限範囲、中止基準等があれば記載して下さい。)		
医師記載欄	氏名 (要署名または押印)	
所属科	リハ科	整形外科 神経内科 その他 ()
PT 記載欄	氏名 (要署名または押印)	
OT 記載欄	氏名 (要署名または押印)	
MSW 記載欄	氏名 (要署名または押印)	

介助犬のニーズ

作業訓練内容と注意事項、犬に求められる体格、体高、必要な自助具他配慮、事前評価等

介助内容（当てはまるものに○をうつ）	特記事項
① 物の拾い上げ及び運搬	
② 特定の物を手元に持ってくる	
③ ドアの開閉	
④ スイッチの操作	
⑤ 起立、体位変換時の介助	
⑥ 車いすへの移乗介助	
⑦ 歩行介助と姿勢介助	
⑧ 階段昇降の介助	
⑨ 車いすの牽引等	
⑩ 衣服や靴等の着脱	
⑪ 緊急時の連絡手段確保	
⑫ その他	

社会的背景・経済状況

勤務先

職業

資格

履歴（学歴・職歴）

年収 約 円

家族構成

主な介助者	介助時間

特記事項

犬の飼育管理費用負担の可否	可 不可 問題あり	
家族や介助者からの理解	あり 問題あり	
職場での理解	あり 問題あり 不明	
地域での理解	あり 問題あり 不明	

犬の世話に関する事項	特記事項
餌やペットシートなどの買い物 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
獣医科病院に連れて行く 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
首輪やハーネスをつける 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
食餌を与える 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
水を与える 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
リードをつける 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
散歩に連れて行く 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	

排泄物を拾う 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
ボール遊びなどの犬との遊びや運動 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
ブラシをかける 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
体を拭く、足を拭く 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
シャンプーをする 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
爪を切る 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	
耳掃除をする 1.日常的に自立 2.一部困難 3.一部不能 4.不能	

介助犬訓練記録書

記載者氏名

印

所属訓練事業者

障害者氏名

男 女

生年月日

年 月 日 歳

障害名

種 級

現傷病名

発症年月日

介助犬のニーズ

作業訓練内容

候補犬決定

年 月 日

基本訓練開始日

年 月 日

終了

年 月

備考

作業訓練開始日

年 月 日

終了

年 月

備考

合同訓練開始

年 月 日

実施場所

終了

年 月

備考

訓練サマリー

訓練内容、訓練における注意点、問題点とその解決法、現在の課題などを記載

介助犬協会 合同前評価試験

目的と評価ポイント

合同前評価試験の最大の目的は、使用者と介助犬の二者が公共の場において、他人に危険を及ぼすことなく安全な振る舞いができているかを担当トレーナーによって確認するものである。犬は他人に迷惑をかけずに落ち着いて担当トレーナーの側を歩かなければならない。そして担当トレーナーは、いかなる時も犬の管理を怠らず、責任者としての認識を保持しなければならない。

また作業面では、自宅や職場等で使用者の求めるニーズを犬が的確にこなしているかを評価する。

はじめに・・・

- ・テストは以下のように行われる
- ・試験の内容に修正が必要であれば、テスト用紙の最後の欄に明記すること
- ・試験官はテストを始める前に使用者に試験内容を詳細に説明をすること
- ・試験官はテスト中は静かに観察をしながら後ろをついて行くこと

テスト場所

- ・人の数が多く、犬にとって注意散漫になりやすい公共の場所（ショッピングセンター等）で行われる
 - *ショッピングセンター等で行う場合は、店舗の許可が必要となることもあるので事前に確認しておく
- ・自宅や職場など、日常生活で使用者が犬に介助動作を指示する場所

採点基準	A. 常にできる	(100%、または1回目で)
	B. 大抵できる	(80%、または2回目で)
	C. 半分程できる	(31%～79%、または3回目で)
	D. 時々できる	(30%)
	E. できない	

Yes できる
No できない

- 合格・A～Eの採点基準のテスト項目では、採点がAかBの場合のみ合格とする
- ・Yes、Noの採点基準のテスト項目では、採点がYesの場合のみ合格とする

- 不合格** ・いかなる場合にも、犬が攻撃的な行動（唸る、噛む、歯を見せるなど）を見せた時は失格となる
- ・建物内での排泄行為、または抑制不能な行動をした場合は失格となる

- 再試験** ・合格基準を満たさず不合格となった場合、試験を行った日から2週間以内に一度だけ再試験を受けることができる

テスト項目【方法と評価ポイント】

1. 車からの降車

- 方法** 使用者は、安全な方法で車から犬とその他の必要な器具（車椅子、歩行補助器、杖など）を降ろす。二者が車の外に出て落ち着いたら、助手が他の犬を連れて二者から3m以内の距離を歩いて通り過ぎる。

評価ポイント

使用者は、車から犬を降ろすのに安全な場所、方法を選択できているか。犬は、車から出るまでは中で静かに待ち、車の外に出てからも次の指示が出されるまで静かに待っていること。他の犬が通りすぎる時も、犬は静かな落ち着いた態度で待ち、リードを引っ張ったり犬の方へ行こうとしてはいけない。

2. 公共施設への接近

- 方法** 二者は、駐車場を周囲の妨げにならない様に安全な方法で通り抜け、建物の入口に近づく。

評価ポイント

使用者は、安全な方法により入口に近づいているか。この時犬は、車の往来や雑音を怖がらずに使用者の横を落ち着いて歩き、使用者が止まった場合には止まること。

3. 建物内に入る

- 方法** 使用者は、自分が安全に通り抜けられる方法で建物内に入る。

評価ポイント

使用者は犬と共に周囲の妨げにならない様に建物内に入れたか。この時犬は、通りすがりの人の関心を引こうとせず使用者の横を落ち着いて歩いていること。また、入口付近のマットなどの臭いをしつこく嗅いだりしないこと。

4. 建物内を歩く

- 方法** 建物内に入ったら、二者はしばらく（5分位）歩く。しばらくしたら、使用者は犬に「sit」をさせる。その側（1m以内）を助手がショッピングカートを押して通り過

ぎる。次に使用者は犬に「sit stay」をさせる。助手が二者に近づき、使用者に話しかけ犬を撫でる。

評価ポイント

二者は、人混みの中でも他人に迷惑をかけることなく歩いているか。犬は、周囲の人の関心を引こうとしたりリードを引っ張らずに使用者の横を落ち着いて歩き、速度の変化や狭い通路にも対応すること。ショッピングカートの音や人に撫でられることに対しても、落ち着いた態度で指示に従うこと。

5. レストラン、又はフードコーナーにて

方法 二者は、速やかにテーブルのある所へ移動する。使用者は、テーブルに着いたら犬をテーブルの下へ入れ（サイズの問題があれば、できるだけ使用者の近くへ）「down stay」させる。食事中に、助手が食べ物の入った皿を床に置く。この時、使用者は口頭もしくは物理的に犬を矯正してもよい。犬が落ち着いたら皿を引き上げる。この試験中、助手は食べ物を使って犬をからかったり焦らせてはいけない。

評価ポイント

二者は、周囲に迷惑をかけることなくテーブルにつくこと。テーブルの下（もしくは使用者の側）の犬は、落ちている食べ物や人が食べている物の匂いを嗅いだり興味を示さず静かに待っていること。犬は楽な姿勢を取るために若干動いても良いが、何度も起きあがったり矯正される様ではいけない。食べ物の入った皿を置かれた時、犬は食べ物を食べようとしたり、必要以上に匂いを嗅いではいけない。

6. 音に対する反応

方法 二者が歩いている背後で助手がクリップボードを落とす。

評価ポイント

犬は、物音を気に止めたり通常の驚きの反応（若干の飛び上がりや振り返り）を示しても良いが、その後すぐに使用者の横を落ち着いて歩かなければならない。犬はいかなる攻撃性や恐怖反応を示してはならない。

7. リードを放す

方法 適当な場所で使用者は犬にわかる様にリードを放す。使用者は、リードを正しい位置に戻すよう犬に指示を与える。

評価ポイント

犬はリードが離れたことに気付きながらも使用者の指示に従い、リードを正しい位置に戻さなければならない。

8. 建物から出る

方法 建物に入る時と同様に、二者は安全な方法で建物から出て、駐車場を通り抜けて車に戻る。

評価ポイント

使用者は、犬と共に周囲の妨げとならない様に建物の外に出て入る時と同様に落ち着いて車に戻ることができるか。この時犬は、通りすがりの人の関心を引こうとせず、車の往来や雑音に恐怖反応を示さず、使用者の横を落ち着いて歩かなければならない。

9. 車の乗車

方法 使用者は安全を確認し、犬を車に乗せる。

評価ポイント

使用者は安全確認ができているか。犬は使用者の指示があるまで駐車場内をうろろろすることなく静かに待っていなければならない。指示があったら速やかに車に乗り込まなければならない。

10. 介助犬としての作業

方法 場所を自宅や職場等へ移動し、使用者は犬にあらかじめ決まっている介助動作をするよう指示を出す。

評価ポイント

犬は指示された介助動作を理解し、的確にこなしているか。

11. 二者の関係

方法 試験中の二者を観察し評価する。

評価ポイント

使用者は、自分のパートナーである犬の性格をある程度理解した上で、試験中に起こるさまざまな出来事に対して適切な対処法をとっているか。そして、犬は使用者を信頼し、自信をもって行動しているか。

合同前評価試験

犬名及び担当トレーナー氏名： _____

試験官氏名： _____

<役職> トレーナー ・ 事務局スタッフ

試験日： _____ 年 月 日 ()

試験場所： _____

評価項目

1. 車からの降車

使用者は犬を安全な方法で車から降ろす。その時、犬は使用者の指示に従っているか。

- | | | |
|------------------------------|-----------|----|
| ・ 使用者は、自分と犬の安全を確認できている | Yes | No |
| ・ 犬は指示が出されるまで車の中でおとなしく待っている | A B C D E | |
| ・ 犬は車から降りてから使用者の側でおとなしく待っている | A B C D E | |
| ・ 他の犬が通り過ぎる時も落ち着いて指示に従っている | A B C D E | |

2. 公共施設への接近

犬は使用者の横を歩き、落ち着いて建物に近づく。

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ・ 犬は使用者の横を丁度よいペースで歩いている | A B C D E |
| ・ 犬は車や多くの人々を怖がらずにリラックスしている | A B C D E |
| ・ 使用者が止まった時に犬も止まる | A B C D E |

3. 建物内に入る

使用者は安全に通り抜けられる方法で中に入る。犬は周囲の人の関心を引こうとせず落ち着いているか。

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| ・ 犬は自らすれ違う人の関心を引こうとしていない | A B C D E |
| ・ 入り口付近やジュータンの臭いをしつこく嗅いでいない | A B C D E |
| ・ 犬は使用者の横を落ち着いて歩いている | A B C D E |

4. 建物内を歩く

使用者と犬は他人に迷惑をかけることなく歩いているか。しばらくして、犬を sit させ、その側を第三者がショッピングカートを押して通り過ぎた時の様子。また、犬を sit stay させて第三者が2人の背後から近づき使用者に話しかけ犬を撫でる。

- ・ 犬は使用者の横を落ち着いて歩いている A B C D E
- ・ 商品に興味をもたない A B C D E
- ・ 狭い場所もうまく通り抜ける A B C D E
- ・ ショッピングカートを怖がらない A B C D E
- ・ 速やかに sit や sit stay の指示に従う A B C D E
- ・ 背後から来た人に対して怖がらない A B C D E
- ・ 人の気を引こうとして立ち上がらない A B C D E
- ・ 何度も矯正されない A B C D E

5. レストラン又はフードコーナーにて

人の食べ物に興味を持たずにおとなしく待ってられるか。また、床に食べ物を置いた時の犬の様子をみる。

- ・ テーブルに着くまで犬は使用者の指示に従って速やかに移動している A B C D E
- ・ テーブルの側もしくは下で down stay している A B C D E
- ・ 床に落とした食べ物の臭いをしつこく嗅いだりしない A B C D E
- ・ 置いた食べ物を食べない Yes No
- ・ 人が側に来たときもおとなしく down stay している A B C D E

6. 音に対する反応

2人が歩いている背後で、クリップボード落とす。

- ・ 犬は気にせず落ち着いている A B C D E
- ・ 犬は驚くが使用者の指示に従う（反応が見られた時のみ記入） Yes No
- ・ すぐに普通の状態に戻った A B C D E

7. リードを放す

試験官から指示があったら、使用者は犬にわかるようにリードを放し、犬に正しい位置に戻すよう指示をする。

- ・犬はリードが離れたことに気付きながら、使用者から離れない A B C D E
- ・犬は指示に従いリードを正しい位置に戻す A B C D E

8. 建物から出る

建物に入る時と同様に使用者は安全に車まで戻る。この時犬は周囲の人の関心を引こうとせず落ち着いて歩いているか。

- ・犬は自ら周囲の関心を引こうとしていない A B C D E
- ・絨毯等の臭いを気にしない A B C D E
- ・車の音等に異常に驚かない A B C D E
- ・犬は使用者の横を落ち着いて歩いている A B C D E

9. 車の乗車

使用者は安全を確認し、犬を車に乗せる。犬は使用者の指示があるまでおとなしく待っていて、指示があったら素早く車に乗り込む。

- ・使用者は安全なルート、及び方法で車まで戻った A B C D E
- ・犬は指示があるまで待っていた A B C D E
- ・犬は素早く車に乗り込んだ A B C D E

10. 介助犬としての作業動作

犬は使用者が必要としているニーズをこなしているか。

<自宅にて>

- ・(物の拾い上げ及び運搬) A B C D E 不要
- ・(特定の物を手元に持ってくる) A B C D E 不要
- ・(ドアの開閉) A B C D E 不要
- ・(スイッチの操作) A B C D E 不要
- ・(起立、体位変換時の介助) A B C D E 不要

- ・(車いすへの移乗介助) A B C D E 不要
- ・(歩行介助と姿勢支持) A B C D E 不要
- ・(階段昇降の介助) A B C D E 不要
- ・(車いすの牽引等) A B C D E 不要
- ・(衣服や靴等の着脱) A B C D E 不要
- ・(緊急時の連絡手段確保) A B C D E 不要

<屋外にて>

- ・(物の拾い上げ及び運搬) A B C D E 不要
- ・(特定の物を手元に持ってくる) A B C D E 不要
- ・(ドアの開閉) A B C D E 不要
- ・(スイッチの操作) A B C D E 不要
- ・(歩行介助と姿勢支持) A B C D E 不要
- ・(階段昇降の介助) A B C D E 不要
- ・(車いすの牽引等) A B C D E 不要

1.1. 二者の関係

テスト中の使用者と犬の関係をみる。

- ・犬が上手く出来たときに使用者は犬をよくほめていた A B C D E
- ・犬は落ち着きがあり自信をもっていた A B C D E
- ・使用者は常に犬をコントロールできていた A B C D E
- ・指示の出し方が明確だった A B C D E

合同前評価試験 結果

犬名及びハンドリング者氏名： _____

試験官氏名：(トレーナー) _____

(トレーナー) _____

(事務局スタッフ) _____

試験日： 年 月 日 ()

試験場所： _____

最終結果： 合格 ・ 不合格

介助犬協会 合同後総合試験

目的と評価ポイント

合同後総合試験の最大の目的は、使用者と介助犬の二者が公共の場において、他人に危険を及ぼすことなく安全な振る舞いができているかを確認するものである。犬は他人に迷惑をかけずに落ち着いて使用者の側を歩かなければならない。そして使用者は、いかなる時も犬の管理を怠らず、責任者としての認識を保持しなければならない。

また作業面では、自宅や職場等で使用者の求めるニーズを犬が的確にこなしているかを評価する。

はじめに・・・

- ・テストは以下のように行われる
- ・試験の内容に修正が必要であれば、テスト用紙の最後の欄に明記すること
- ・試験官はテストを始める前に使用者に試験内容を詳細に説明をすること
- ・試験官はテスト中は静かに観察をしながら後ろをついて行くこと

テスト場所

- ・人の数が多く、犬にとって注意散漫になりやすい公共の場所（ショッピングセンター等）で行われる
 - *ショッピングセンター等で行う場合は、店舗の許可が必要となることもあるので事前に確認しておく
- ・自宅や職場など、日常生活で使用者が犬に介助動作を指示する場所

採点基準	A. 常にできる	(100%、または1回目で)
	B. 大抵できる	(80%、または2回目で)
	C. 半分程できる	(31%～79%、または3回目で)
	D. 時々できる	(30%)
	E. できない	

Yes できる

No できない

- 合格**・A～Eの採点基準のテスト項目では、採点がAかBの場合のみ合格とする
- ・Yes、Noの採点基準のテスト項目では、採点がYesの場合のみ合格とする

- 不合格**
- ・いかなる場合にも、犬が攻撃的な行動（唸る、噛む、歯を見せるなど）を見せた時は失格となる
 - ・建物内での排泄行為、または抑制不能な行動をした場合は失格となる

- 再試験**
- ・合格基準を満たさず不合格となった場合、試験を行った日から2週間以内に一度だけ再試験を受けることができる

テスト項目〔方法と評価ポイント〕

1. 車からの降車

- 方法** 使用者は、安全な方法で車から犬とその他の必要な器具（車椅子、歩行補助器、杖など）を降ろす。二者が車の外に出て落ち着いたら、助手が他の犬を連れて二者から3m以内の距離を歩いて通り過ぎる。

評価ポイント

使用者は、車から犬を降ろすのに安全な場所、方法を選択できているか。犬は、車から出るまでは中で静かに待ち、車の外に出てからも次の指示が出されるまで静かに待っていること。他の犬が通りすぎる時も、犬は静かな落ち着いた態度で待ち、リードを引っぱったり犬の方へ行こうとしてはいけない。

2. 公共施設への接近

- 方法** 二者は、駐車場を周囲の妨げにならない様に安全な方法で通り抜け、建物の入口に近づく。

評価ポイント

使用者は、安全な方法により入口に近づいているか。この時犬は、車の往来や雑音を怖がらずに使用者の横を落ち着いて歩き、使用者が止まった場合には止まること。

3. 建物内に入る

- 方法** 使用者は、自分が安全に通り抜けられる方法で建物内に入る。

評価ポイント

使用者は犬と共に周囲の妨げにならない様に建物内に入れたか。この時犬は、通りすがりの人の関心を引こうとせず使用者の横を落ち着いて歩いていること。また、入口付近のマットなどの臭いをしつこく嗅いだりしないこと。

4. 建物内を歩く

- 方法** 建物内に入ったら、二者はしばらく（5分位）歩く。しばらくしたら、使用者は犬に「sit」をさせる。その側（1m以内）を助手がショッピングカートを押して通り過ぎる。次に使用者は犬に「sit stay」をさせる。助手が二者に近づき、使用者に話しか

け犬を撫でる。

評価ポイント

二者は、人混みの中でも他人に迷惑をかけることなく歩いているか。犬は、周囲の人の関心を引こうとしたりリードを引っ張らずに使用者の横を落ち着いて歩き、速度の変化や狭い通路にも対応すること。ショッピングカートの音や人に撫でられることに対しても、落ち着いた態度で指示に従うこと。

5. レストラン、又はフードコーナーにて

方法 二者は、速やかにテーブルのある所へ移動する。使用者は、テーブルに着いたら犬をテーブルの下へ入れ（サイズの問題があれば、できるだけ使用者の近くへ）「down stay」させる。食事中に、助手が食べ物の入った皿を床に置く。この時、使用者は口頭もしくは物理的に犬を矯正してもよい。犬が落ち着いたら皿を引き上げる。この試験中、助手は食べ物を使って犬をからかったり焦らせてはいけない。

評価ポイント

二者は、周囲に迷惑をかけることなくテーブルにつくこと。テーブルの下（もしくは使用者の側）の犬は、落ちている食べ物や人が食べている物の匂いを嗅いだり興味を示さず静かに待っていること。犬は楽な姿勢を取るために若干動いても良いが、何度も起きあがったり矯正される様ではいけない。食べ物の入った皿を置かれた時、犬は食べ物を食べようとしたり、必要以上に匂いを嗅いではいけない。

6. 音に対する反応

方法 二者が歩いている背後で助手がクリップボードを落とす。

評価ポイント

犬は、物音を気に止めたり通常の驚きの反応（若干の飛び上がりや振り返り）を示しても良いが、その後すぐに使用者の横を落ち着いて歩かなければならない。犬はいかなる攻撃性や恐怖反応を示してはならない。

7. リードを放す

方法 適当な場所で使用者は犬にわかる様にリードを放す。使用者は、リードを正しい位置に戻すよう犬に指示を与える。

評価ポイント

犬はリードが離れたことに気付きながらも使用者の指示に従い、リードを正しい位置に戻さなければならない。

8. 建物から出る

方法 建物に入る時と同様に、二者は安全な方法で建物から出て、駐車場を通り抜けて車に戻る。

評価ポイント

使用者は、犬と共に周囲の妨げとならない様に建物の外に出て入る時と同様に落ち着いて車に戻ることができるか。この時犬は、通りすがりの人の関心を引こうとせず、車の往来や雑音に恐怖反応を示さず、使用者の横を落ち着いて歩かなければならない。

9. 車の乗車

方法 使用者は安全を確認し、犬を車に乗せる。

評価ポイント

使用者は安全確認ができているか。犬は使用者の指示があるまで駐車場内をうろろろすることなく静かに待っていなければならない。指示があったら速やかに車に乗り込まなければならない。

10. 介助犬としての作業

方法 場所を自宅や職場等へ移動し、使用者は犬にあらかじめ決まっている介助動作をするよう指示を出す。

評価ポイント

犬は指示された介助動作を理解し、的確にこなしているか。

11. 二者の関係

方法 試験中の二者を観察し評価する。

評価ポイント

使用者は、自分のパートナーである犬の性格をある程度理解した上で、試験中に起こるさまざまな出来事に対して適切な対処法をとっているか。そして、犬は使用者を信頼し、自信をもって行動しているか。

合同訓練後総合評価

犬名及び使用者氏名： _____

試験官氏名： _____

<役職> トレーナー ・ OTまたはPT ・ 事務局スタッフ

試験日： 年 月 日 ()

試験場所：

評価項目

1. 車からの降車

使用者は犬を安全な方法で車から降ろす。その時、犬は使用者の指示に従っているか。

- | | | |
|------------------------------|-----------|----|
| ・ 使用者は、自分と犬の安全を確認できている | Yes | No |
| ・ 犬は指示が出されるまで車の中でおとなしく待っている | A B C D E | |
| ・ 犬は車から降りてから使用者の側でおとなしく待っている | A B C D E | |
| ・ 他の犬が通り過ぎる時も落ち着いて指示に従っている | A B C D E | |

2. 公共施設への接近

犬は使用者の横を歩き、落ち着いて建物に近づく。

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ・ 犬は使用者の横を丁度よいペースで歩いている | A B C D E |
| ・ 犬は車や多くの人々を怖がらずにリラックスしている | A B C D E |
| ・ 使用者が止まった時に犬も止まる | A B C D E |

3. 建物内に入る

使用者は安全に通り抜けられる方法で中に入る。犬は周囲の人の関心を引こうとせず落ち着いているか。

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| ・ 犬は自らすれ違う人の関心を引こうとしていない | A B C D E |
| ・ 入り口付近やジュータンの臭いをしつこく嗅いでいない | A B C D E |
| ・ 犬は使用者の横を落ち着いて歩いている | A B C D E |